

2019 年 8 月 26 日

国土交通省九州地方整備局 局長 村山 一弥様

国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所所長 安原 達様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水 晃、上村 雄一、緒方 俊一郎

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:020-4668-3744

瀬戸石ダム下流の調査見学会の結果を受けての要請書

私たちは、8月4日に荒瀬ダム跡の下流域から瀬戸石ダム下流域までの球磨川の川岸の砂利や礫の大きさに着目した調査活動を行いました。

調査によって分かったのは、瀬戸石ダムに近づけば近づくほど小さな砂利や石が減って、大きな石ばかりになっていくということです（調査結果の詳細は別紙1, 2参照）。

説明してくれたつる詳子氏（自然観察指導員熊本県連絡会会長）によれば、鮎の産卵に適しているのは直径3センチメートル前後の小砂利ということです。ダムが無かった頃の球磨川では、このような小砂利がたくさんあり、鮎の産卵場所もいたるところにあったそうです。海も砂礫の供給により、砂干潟が広がっていました。

荒瀬ダムが撤去されたことによって、荒瀬ダム湖にたまっていた土砂が下流や八代海に供給されましたが、溜まっていた小さな砂利や礫は上流に行くほど既に少なくなっています。しかも上流の瀬戸石ダムから供給されるのは、砂利や礫ではなく、泥であるため、瀬戸石ダム下流の河原は大きな石ばかりが目立つ粗粒化（アーマー化）が進行し、浮石が多かった河原の礫の周りには泥が堆積し、河原には、草本が繁茂しつつあります。要するにダムの下流が特異な河床・河原の形態に変化しつつあるということです。

昨年度、瀬戸石ダムを管理運営する電源開発は「通砂/排砂」処理により、例年になく量の土砂を下流に流下させたと言っていますが、鮎の産卵や他の生物の多様性増加に不可欠な砂礫や河口干潟の維持に必要な砂の供給には遠く及びません。

本来なら下流に供給されるはずである瀬戸石ダム湖の堆積土砂はすべて下流に戻すべきです。

つきましては、河川管理者として河川や海の生態系回復のために、このような環境調査と下流への土砂還元を早急に行うよう対策を実施していただきますこと強くお願いします。

以上

1. 荒瀬ダム跡の下流域から瀬戸石ダム下流域の川岸の砂利や礫の大きさの調査結果（2019年8月4日実施、測定用ポールの赤白の幅は20cm）

① 藤本地区



② 荒瀬地区



③ 鎌瀬地区



④ 中津道地区



2. 調査箇所

